

②－1 令和6年産の作付意向

水田における作付意向について（令和6年産第2回中間的取組状況（令和6年4月末時点）） ①

- 農林水産省では産地・生産者が主体的に作付を判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。
- 5年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、4月末時点では、増加傾向11県、前年並み25県、減少傾向11県。1月末時点と比較して、増加傾向が5県から11県に増加。
- 戦略作物については、加工用米、新市場開拓用米（輸出用米等）、米粉用米、WCS用稲及び麦において増加傾向又は前年並みとしている県が多い一方、飼料用米については、前年並み又は減少傾向とする県が多い。

【令和6年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和6年4月末時点）】下段〔 〕は1月末時点の作付意向

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔 稲発酵粗 飼料用稲 〕	麦	大豆	
前年より 増加傾向	11県 〔5県〕	20県 〔17県〕	26県 〔19県〕	20県 〔17県〕	1県 〔3県〕	25県 〔18県〕	24県 〔17県〕	7県 〔5県〕	5県 〔2県〕
前年並み	25県 〔30県〕	10県 〔18県〕	6県 〔17県〕	9県 〔22県〕	9県 〔17県〕	15県 〔23県〕	10県 〔16県〕	12県 〔19県〕	5県 〔10県〕
前年より 減少傾向	11県 〔11県〕	14県 〔8県〕	6県 〔1県〕	16県 〔5県〕	36県 〔25県〕	6県 〔4県〕	11県 〔11県〕	26県 〔20県〕	21県 〔18県〕

注1：令和6年産の意向（増加傾向、前年並み、減少傾向）は、5年産実績との比較。
2：比較している主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が令和5年9月30日時点で都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第2回中間的取組状況（令和6年4月末時点）） ②

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆	
		4月末時点 (今回公表)	1月末時点 (前回公表)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
全国計	124.2万			48,797		9,091		7,587		133,925		53,055		104,526		87,973	
北海道	82,200	↗	↗	6,920	↘	1,974	↗	143	↘	6,788	↘	1,594	↗	33,869	↘	17,865	↘
青森	33,800	↗	↗	787	↘	321	↗	12	↗	7,930	↘	788	↗	561	↘	4,801	↘
岩手	42,800	→	→	1,283	→	417	↗	30	↘	5,739	↘	2,396	↗	3,491	↗	4,196	↘
宮城	57,200	↗	→	626	↗	894	↗	103	↗	9,801	↘	2,757	↗	2,186	↗	9,525	→
秋田	69,900	→	→	8,264	↗	500	↗	329	↗	4,265	↘	1,235	↗	182	↘	8,701	→
山形	52,400	→	→	4,516	→	440	↗	112	↘	5,138	↘	1,239	↗	73	↗	4,655	↘
福島	53,100	↗	→	448	↘	142	↗	12	↗	11,722	↘	1,079	↗	333	↗	907	→
茨城	57,800	↗	→	947	↗	762	↗	55	↗	13,886	↘	653	↘	4,037	↗	776	↘
栃木	47,200	↗	↘	1,513	↗	70	↘	1,418	↘	15,069	↘	2,177	↗	7,442	↗	419	↘
群馬	12,400	↗	→	1,389	↘	0	↗	168	↘	1,661	↘	621	↘	2,185	↗	118	↗
埼玉	27,500	→	→	144	↗	52	↗	769	↗	3,605	↘	124	↘	1,877	↗	383	↗
千葉	45,800	↗	→	1,672	↗	35	↗	135	↗	10,154	↘	1,316	↘	440	↘	262	↘
東京	111	→	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	→	→	-	-	-	-	-	-	13	→	2	→	4	→	6	→
新潟	100,600	→	→	7,093	↘	1,586	↗	1,784	↘	4,032	↘	533	↗	189	↗	3,996	↘
富山	31,200	→	→	1,220	↘	342	↗	266	↗	2,096	↘	480	↗	2,834	→	4,165	↘
石川	20,800	→	-	481	↗	65	↗	371	↘	1,131	↘	127	↗	1,198	↗	981	→
福井	21,500	↗	↗	322	↗	132	↗	213	↗	1,976	↘	160	→	5,210	↘	76	→
山梨	4,660	↘	↘	62	→	-	-	29	↘	21	↘	18	↗	62	→	99	→
長野	29,300	→	→	733	↘	245	↗	24	↗	429	↘	265	↗	2,543	↘	670	↘
岐阜	19,700	→	→	741	↗	78	↗	65	↗	3,496	↘	303	↘	3,689	↗	359	→
静岡	15,000	→	→	105	↘	1	→	8	↘	1,011	↘	330	→	244	↗	38	↗
愛知	24,700	↗	→	573	↗	44	↗	278	↗	2,040	↘	182	→	5,646	→	70	↘
三重	24,900	→	→	168	↗	54	↘	95	↘	2,426	→	303	→	7,050	↗	188	↘

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向（対前年実績）」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が令和5年9月30日時点で都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第2回中間的取組状況（令和6年4月末時点）） ③

都道府県	主食用米			戦略作物														備蓄米	
	5年産実績	6年産意向（対前年実績）		加工用米		新市場開拓用米 （輸出用米等）		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 （稲発酵粗飼料用稲）		麦		大豆		5年産実績	6年産意向 （対前年実績）
		4月末時点 （今回公表）	1月末時点 （前回公表）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）	5年産実績	6年産意向 （対前年実績）		
滋賀	27,000	→	↗	608	↘	205	↗	58	↗	2,033	↘	310	↗	8,222	↗	591	↗	282	↘
京都	13,200	→	→	551	→	25	↘	10	→	133	↘	158	→	290	→	266	→	-	-
大阪	4,430	↘	↘	0	↗	-	-	5	→	6	↘	4	↗	2	↗	8	↗	-	-
兵庫	32,500	↘	→	674	→	185	↗	48	↘	819	→	972	↗	1,931	→	1,658	↗	-	-
奈良	8,200	→	→	19	→	-	-	36	→	50	→	43	→	68	→	22	→	-	-
和歌山	5,780	→	→	-	-	-	-	1	→	3	→	4	↘	4	↘	11	↘	-	-
鳥取	11,700	→	→	25	↘	33	↗	0	↗	821	↘	392	↗	68	↗	619	↘	79	↘
島根	15,900	↘	↘	252	↘	2	→	7	↘	804	↘	745	↗	281	↘	629	↘	26	→
岡山	26,900	↘	↘	295	↘	189	→	120	↘	1,824	↘	475	↗	1,269	→	1,116	↘	152	↘
広島	20,500	→	→	351	→	44	↗	96	↗	443	→	708	→	318	↘	226	↘	10	↗
山口	16,000	↘	↘	976	→	86	→	43	↘	1,108	↘	410	↗	711	↗	816	↘	-	-
徳島	9,480	↗	→	20	↗	40	→	11	↗	1,007	↘	247	→	55	↗	7	↘	198	↘
香川	10,100	↘	↘	48	↗	28	↗	7	→	195	↗	269	↗	1,322	↗	39	↘	-	-
愛媛	12,800	→	→	34	↗	-	-	6	→	344	↘	217	↗	430	↗	313	↗	-	-
高知	10,200	→	→	84	↗	-	-	18	→	1,135	→	321	→	5	→	54	→	2	→
福岡	32,300	→	↗	224	↘	12	↗	322	↗	2,475	↘	2,068	↗	1,140	↘	7,773	→	11	↘
佐賀	21,700	→	→	406	↘	8	→	19	↘	829	↘	2,246	→	1,411	↗	6,241	↘	42	↘
長崎	10,000	↘	↘	6	→	10	↘	4	↗	117	→	1,549	→	78	↘	256	↘	-	-
熊本	28,900	→	→	672	→	41	↘	309	→	1,646	↘	9,167	→	795	→	2,238	↘	66	↘
大分	18,100	↘	↘	148	↗	2	↗	13	↘	1,932	↘	2,758	→	693	↗	1,317	↘	19	↗
宮崎	12,700	↘	↘	1,978	↗	22	↗	22	↗	887	↘	7,207	↗	18	↗	207	↘	-	-
鹿児島	15,800	↘	↘	1,389	↗	1	↘	12	↗	880	↘	4,081	→	75	↗	310	↘	-	-
沖縄	544	→	→	30	↗	-	-	2	→	3	→	22	↗	-	-	-	-	-	-

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向（対前年実績）」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が令和5年9月30日時点で都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

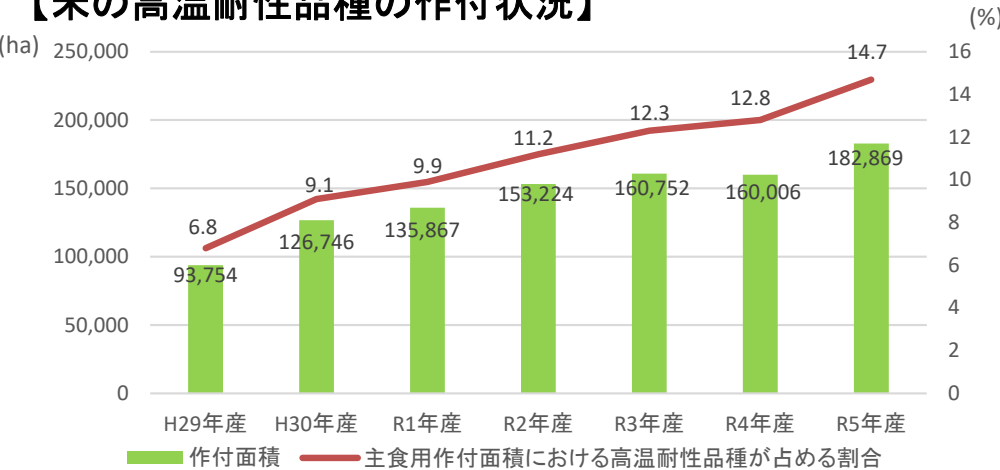
②ー2 高温対策等の取組

夏の高温・渇水の状態と対応について

- 令和5年は、梅雨明け以降、北・東日本を中心に記録的な高温で推移。
- このため、出穂期以降の高温による白未熟粒の発生などが懸念された各県においては、品質低下を防ぐための追肥や水管理・適期収穫等の対応を強化。加えて、一部地域では少雨による渇水のため、灌水(※)や消雪用井戸の活用等も実施。
- 地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれることから、高温耐性品種の拡大を進める必要。
- 令和6年においても、高温耐性品種や栽培技術の導入実証を通じた新たな栽培体系への転換に対する支援を措置し、産地における高温環境への対応に向けた取組を促進。

※灌水：用水の受益地区をいくつかに分け、区分した地区ごと、または圃場ごとに順番と時間を決めて、数日ごとに配水する方法。

【米の高温耐性品種の作付状況】



品種名	作付面積 (令和5年産)	作付けの多い 上位3都道府県	品種名	作付面積 (令和5年産)	作付けの多い 上位3都道府県
きぬむすめ	22,549ha	島根、岡山、鳥取	さがびより	6,220ha	佐賀
こしいぶき	18,300ha	新潟	ハナエチゼン	6,100ha	福井
つや姫	17,823ha	山形、宮城、島根	夢しずく	5,750ha	佐賀
ふさこがね	11,612ha	千葉	なつほのか	5,287ha	長崎、大分、鹿児島
とちぎの星	8,500ha	栃木	ゆきん子舞	5,200ha	新潟
あきさかり	8,361ha	広島、徳島、福井	新之助	4,800ha	新潟
にこまる	7,913ha	長崎、静岡、岡山	雪若丸	4,500ha	山形
彩のきずな	6,900ha	埼玉	その他	36,744ha	
元気つくし	6,310ha	福岡	計	182,869ha	

【令和6年度の対策】

- ＜国からの指導通知＞
 - ・高温に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の通知(令和6年4月25日)発出
- ＜国からの支援＞
 - ・「高温対策栽培体系への転換支援(令和5年度補正予算 2.7億円)」により12県18産地で水稻、野菜、花きの高温耐性品種の導入などの取組を支援

～水稻の事例～

都道府県	事業実施主体	取組内容
秋田県	JA秋田おばこ	飽水管理
茨城県	茨城県	高温耐性品種の導入、水管理、追肥施用、堆肥施用、深耕、病害虫防除
新潟県	新潟県指導農業士会	高窒素鶏ふんペレットの基肥利用栽培体系
富山県	富山県	追加穂肥の実施、堆肥の散布、ゼオライトの散布
富山県	富山県再生協議会	高温耐性品種(富富富、てんたかく、てんこもり)への切替実証
石川県	JA石川かほく	追肥
兵庫県	長尾環直研究会	高温耐性品種(にじのきらめき)の導入
鳥取県	鳥取県産米改良協会	高温耐性品種(星空舞)の導入、堆肥施用
島根県	やすぎ高温耐性米生産推進協議会	高温耐性品種の導入、土づくり(堆肥・土壌改良剤施用)、元肥、追肥(ケイ酸質肥料等)、農薬の適期適量散布、かけ流し灌水

出典：農林水産省「令和5年夏の記録的高温に係る影響と効果のあった温暖化適応策等の状況レポート」

※1 高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種で、地球温暖化による影響に適応することを目的として導入された面積について、都道府県から報告があったものを取りまとめたもの。

※2 作付面積には推計値も含まれる。

イネカメムシの対策について

イネカメムシとは

体長 12-13mm の茶褐色のカメムシで、斑点米カメムシ類の一種である。かつて斑点米カメムシ類の主要種であったが、1960 年台以降に国内で発生量が減少。

しかしながら、近年、本種の発生量が増加している。温暖化に加え、経営規模の大規模化や新規需要米の増加により、地域内で作期の異なる品種が栽培されていることが近年の発生量の増加の要因の一つとして考えられている。

(1) 被害

水稻の籾の基部を加害することにより、基部斑点米を生じさせる。また、他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期から登熟初期に籾を加害し、不稔を生じさせる。不稔が生じた稲は、穂が充実せず直立する。

周囲の水稻より出穂が早い圃場の場合は、本種が集中する可能性がある。

(2) 生態

冬は成虫で越冬し、7 月中下旬の水稻の出穂とともに越冬場所から水田に侵入してくると考えられている。

昼間は株元に潜み、夜間に加害する加害を行う。本虫は、年 1 世代又は年 2 世代である。

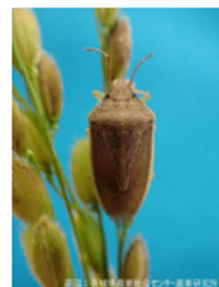
他の斑点米カメムシ類と異なり、稲への嗜好性が高く、畦畔や水田周辺のイネ科雑草で確認されることが少ない。



写真 左：成虫、中：5 齢幼虫、右：基部斑点米

不稔米を発生させるイネカメムシの被害にご注意ください

- イネカメムシの発生が近年、拡大傾向にあります。
- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生**させます。
- 発生量が多く、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。
- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。



イネカメムシの成虫



イネカメムシ幼虫 (5齢)



基部斑点米

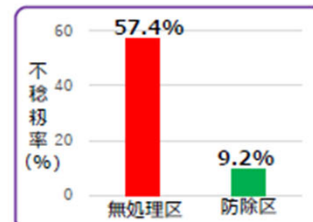


図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

注) 防除区：登録農薬の散布を出穂期0日後と出穂期14日後に実施
山口県農林総合技術センターの試験研究結果から抜粋

イネカメムシに対する防除対策

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、地域の発生状況を把握しましょう。

○圃場内への初期の侵入を把握

圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、圃場への初期の侵入の把握に努めましょう。他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることが少ないです。

○防除の実施

イネカメムシの発生量が多いと判断した場合は、出穂期の臨機防除を実施しましょう。また、過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、出穂期の防除を計画的に実施しましょう。防除後も圃場の発生状況を確認するために、圃場をよく観察しましょう。

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります。都道府県が発表する情報に基づき、イネカメムシに対して、より効果の高い防除を実施してください。



都道府県の病害虫防除所のHP一覧